

2月26日のウクライナ情報

安齋育郎

●スコット・リッター「もう遅いよ、ゼレンスキー」(2023年2月18日)

<https://youtu.be/nxIW9ubmM3s>



●シーモア・ハーシュとは何者なのか？(2023年2月22日)

<https://twitter.com/i/status/1623964924866342912>



●「ナチス政権救済の試みは見込みなし」=ラブロフ露外相 バイデン氏のウクライナ訪問は「見世物」(2023年2月22日)

ロシアのセルゲイ・ラブロフ外相は 21 日、米国のジョー・バイデン大統領がウクライナを訪問したことを「見世物」と呼び、ウクライナへの軍事支援を続ける米国の姿勢を批判した。

ラブロフ外相は次のように述べている。

「何か新しいことがあるのか？あれは見世物だ。西側の我々の元同僚たちはナチス政権を救済しようとしている。この試みは将来の見込みがない」

米国のジョー・バイデン大統領は 20 日、ウクライナの首都・キエフ(キーウ)を電撃訪問した。バイデン大統領のウクライナ訪問は予告されていなかった。バイデン大統領は 18 日朝にキエフに電車で到着。現地の各メディアは首都の警備体制が厳重になっていたことを伝えていたが、バイデン大統領の訪問が明らかになったのは現地時間正午ごろになってからだった。

ウォロディミル・ゼレンスキー大統領との会談では、約 4 億 6000 万ドル(616 億円)規模の追加

軍事支援を表明。そのなかにはこれまでも提供されてきた歩兵携行式多目的ミサイル「ジャベリン」や多連装ロケット砲「ハイマース」などが含まれるという。



●ドイツ外相への冷やかし記事(2023 年 2 月 23 日)

ドイツのベアボック外相は昨日、多くの批判を受けた。

多く的人是、これはアナレナ(アンナレーナ・ベアボック)の単なる言い間違いであり、彼女が教育を受けていないと結論付けることはできないと考えていた。

然し、彼女はもう一度言った、プーチンは 360 度向きを変えるべきだと…

<https://twitter.com/i/status/1628550318404378626>

※安斎注:幾何学は不得手なんでしょうね。360 度向きを変えたら、元に戻っちゃう。180 度ですねえ。



●プーチン人気?(2023 年 2 月 22 日)

プーチン大統領がモスクワのルジニキ スタジアムで開催された祖国の擁護者のラリー コンサートでステージに上がり、観衆が RUSSIA, RUSSIA! と叫ぶ中、スタジアムはどよめきます。



●ウクライナの臓器売買、麻薬、人身売買(2023 年 2 月 22 日)

<https://twitter.com/i/status/1628372866034208769>



●ロシア兵への祖父からのビデオ・メッセージ(2023 年 2 月 22 日)

ロシアの兵士は、ベテランの祖父からビデオ メッセージを受け取りました。1940 年代にドイツのナチスと戦った男性は、孫に、尊厳を持って奉仕し、ウクライナ民族主義者の犯罪を報復し、勝利を収めて帰国するよう促しました。青年は涙をこらえきれなかった。

<https://twitter.com/i/status/1628403085763809280>



●イランのハムシャーリ紙の極辛ゼレンスキー評(2023 年 2 月 23 日)

「道化師が地面に倒れる。ゼレンスキーは、彼の政治的無分別のためにウクライナの人々と国を犠牲にした大統領です」。

※安斎注:彼は道化の操り人形でしょうが、操っているアメリカの責任をチャンと見ないとね。



●ワシントンでの「反戦争マシン・デモ」(2023 年 2 月 23 日)

2 月 19 日、ワシントン DC で反戦争マシン集会。反戦ではなくて反戦争マシン。要求は具体的。政治的に左も右も関係なく両側から、戦争マシン＝軍産複合体 DS に飲み込まれていないアウトサイダーたちが登壇。

<https://twitter.com/i/status/1627624240299261954>



OUR DEMANDS

われわれの要求

- 1** Not One More Penny for War in Ukraine
ウクライナにはピター文やるな
- 2** Negotiate Peace
平和交渉を
- 3** Stop the War Inflation
戦争インフレを止める
- 4** Disband NATO
NATO を解体しろ
- 5** Global Nuclear De-Escalation
世界的な核の脅威を減らせ
- 6** Slash the Pentagon Budget
国防総省の予算を減らせ
- 7** Abolish the CIA and Military-Industrial Deep State
CIA と軍産ディープ・ステートを解体せよ
- 8** Abolish War and Empire
戦争と帝国をなくせ
- 9** Restore Civil Liberties
市民の自由の回復を
- 10** Free Julian Assange
ジュリアン・アサンジを解放せよ

●露外務省、ロシアとアフリカの関係発展に欧米諸国が「不快感」を抱く理由を説明 (2023年2月23日)

西側諸国は、ロシアとアフリカの関係強化を個人的な侮辱として受け止めている。なぜなら、アフリカから長年にわたってただ同然で必要な資源を巻き上げてきた新植民地主義の原則をなかなか手放せないためだ。ロシア外務省のミハイル・ボグダノフ次官がこのような見解を示した。

ボグダノフ氏は、スプートニク通信のインタビューに対して「最近の地政学的状況と自由主義的发展モデルの危機は、政治・経済の両方における国際関係の世界的システム全体を再構築する必要性を示している」とし、「フランスを含む『集団的な西側諸国』にとって、これは長年にわたり、アフリカから必要な資源をただ同然で巻き上げ、自国の産業を維持し、経済を発展させてきた新植民地帝国の終焉を意味する」と話した。

「習慣を変えるのは難しいということは明らかだ。したがって、ロシアとアフリカのパートナーシップ強化は、多くの西側諸国では個人的な侮辱として受け止められている。それゆえ、西側諸国はアフリカとともに、大陸で我が国に対抗するために積極的な取り組みを始めている」とボグダノフ氏は指摘した。

一方、ロシアはアフリカ諸国の間で、信頼できるパートナー国であり友好国であり、困難な状況で支援する構えができていて高い評価を得ているという。「アフリカの独立闘争の時も、自然災害の時もそうであったように、今日もテロ脅威への対抗や、アフリカ諸国の主権保全といった問題がある。フランスがこれに対抗するのは難しいだろう」との考えを示した。

西側諸国がこの地域でのロシアの役割強化を阻止しようとしていることから、反ロシア的な挑発が予想されるだろうかという質問に対し、ボグダノフ氏は「別の場面で、何らかの形で非外交的だと言えるかもしれない」と答えた。

「しかし、ウクライナ問題をめぐる西側諸国の行動については、何もかもが予想できることを示しており、我々は状況のいかなる進展にも対応できるようになっている」とボグダノフ氏は締めくくった。



●米国が軍事支援をめぐりウクライナに警告 「米国の資源は無限ではない」=メディア(2023 年 2 月 23 日)

米政府はウクライナに対し、軍事支援を提供する能力が限られていると警告したという。ロイター通信が関係筋の話として報じた。

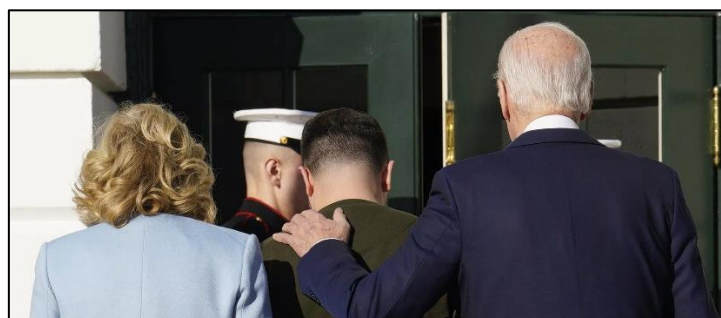
記事によると「ある米政府関係者は匿名を条件に、米政権はウクライナ政府に対し、米国の資源は決して無限ではないと伝えた」という。

同紙の取材に応じた関係者によると、米政府は紛争をできるだけ早く終わらせたいと考えているという。「この紛争をいつかは終わらせなければならないことを誰もが理解している。そして、我々は遅かれ早かれその終わりを見たいと考えている」と語った。

また、記事では、米国民や政界でキエフ(キーウ)政権への支持率が低下していることが指摘されている。例えば、ロイター／イプソスが 2 月 6 日から 13 日にかけて 4000 人以上の米国人を対象に行った世論調査では、ウクライナへの軍事支援に対する支持率が 58%となった。2022 年 4 月の 73%から低下している。

米国では次期大統領選挙を控える中、ウクライナ軍への兵器供給問題も政治的対立の対象となるだろうと指摘されている。

バイデン大統領は 20 日、ウクライナの首都・キエフを電撃訪問し、ウクライナのゼレンスキー大統領と会談した。その中で、バイデン大統領は今後のウクライナへの支援について言及。歩兵携行式多目的ミサイル「ジャベリン」や多連装ロケット砲「ハイマース」など約 4 億 6000 万ドル(約 617 億円)規模の追加支援を発表した。



●マスク氏が非難「ヌーランド氏がウクライナ紛争を激化」(2023 年 2 月 23 日)

米国人企業家のイーロン・マスク氏は、ヌーランド米 국무副長官がクリミアにあるロシア軍基地をウクライナ軍が標的にするのは正当だと発言したことを受け、ヌーランド氏は紛争を劇化させていると非難した。

マスク氏はツイッターに「ヌーランドほど、この戦争を推し進めている者はいない」と書き込んだ。

マスク氏は、クリミアに関するヌーランド氏の発言を受け、ウクライナ紛争への米国の関与についてのロシア人専門家の見解を取り上げた記事について、こうコメントした。

ヌーランド氏は先日、クリミアにあるロシア軍関連施設はウクライナにとっては「合法的な標的」として、ウクライナがこれを攻撃することを米国は支持すると明言した。

マスク氏は先日、クリミア奪還を唱えるウクライナに米国が支持を表明したことを痛烈に批判している。



●インドのジャイシャンカル外相のジョージ・ソロス観(2023 年 2 月 23 日)

インドのジャイシャンカル外相が、ソロスのモディ非難発言(=インドは民主主義国家だが、モディ首相は民主主義者ではない)に応答。

「ソロスは、年寄りで、お金持ちで、ご意見番だけでなく、実際に危険」

<https://twitter.com/i/status/1627085917205991424>



●タッカー・カールソン、中口関係の進展を論じる(2023 年 2 月 21日)

<https://youtu.be/I-q-3z--8iw>



ゼレンスキーは言った。「中国がロシアと結び付けば、世界戦争になる」

●ロシア・中国・南アの合同海上軍事演習(2023 年 2 月 23 日)

ロシア・中国・南アフリカの三国海軍演習の開会式が南アフリカのリチャーズベイ港で開催されました。

演習は 2 月 25 日から 27 日にかけて行われる予定で、海上での共同砲撃や戦術的な演習が行われます。また、ブラジル海軍の代表がオブザーバーとして演習に参加します。

<https://twitter.com/i/status/1628490491607269376>



●プーチン演説の一節(2023 年 2 月 23 日)

「米国の専門家らの試算では戦争の結果、2001 年以降、米国が始めた戦争による死者数は約 90 万人、そして 3800 万人以上が難民となった。米国は今、こうした全てを人類の記憶から消し去り何事もなかったかのように振舞っている。

<https://twitter.com/i/status/1623457282687369216>

第二次世界大戦以降、アメリカ合衆国が空爆を行った国の一覧

グアテマラ (1954)

インドネシア (1958)

キューバ (1959-1961)

グアテマラ (1960)

コンゴ (1964)

ラオス (1964-1973)

ベトナム (1961-1973)

カンボジア (1969-1970)

グアテマラ (1967-1969)

グレナダ (1983)



●ヴィクトリア・ヌーランド米國務次官の正体(2022 年 1 月 27 日)

※安斎注: ちょっと古い動画ですが、ヌーランド理解には役に立つ動画です。

<https://youtu.be/pveMRqVH8Zg>

汚点だらけの「ウクライナ・ハンドラー」ビクトリア・ヌーランド氏が國務次官！ 元外務省国際情報局長 孫崎享氏が米国の「深い闇」を語る！

